

ステージ I 通信

令和6年3月12日

ステージIスローガン
元気 もりもり

勉強 ばりばり

やさしさ ぽかぽか



早いものでもう3月です。今年度もあと2週間。あっという間の1年でした。この1年間で子どもたちは心も体も大きく成長し、私たちを驚かせてくれました。

4月からは新しい学年に進級します。「こんなことしたいな」「きっと楽しいことがあるよ」と、たくさんの夢や希望をもって、新学期を迎えてほしいと思います。そのためには、今の学年を成就感をもって終えることが大切です。残された期間は多くありませんが、一人一人が楽しい1年間だったと思えるようにしたいと思います。



勉強がんばり週間 がんばりました

勉強がんばり週間へのご協力ありがとうございました。下に「勉強時間」「読書時間」「テレビやゲームの時間」「合計点数」の学年での平均点数と保護者の方と児童の声をのせています。

	学年の決まった 時間勉強する (7点満点)	読書を15分以上 する (7点満点)	テレビやゲーム などは60分まで (7点満点)	合計点数 (50点満点)	合計点数が 9割以上 とれていた人数
1年生	6.9	6.1	6.7	47.8	12人(15人中)
2年生	6.3	6.1	5.8	44.6	9人(18人中)
3年生	6.9	5.9	6.2	46.9	10人(13人中)
4年生	6.2	5.0	5.2	43.6	11人(20人中)

【保護者の方から】

- ・みたいテレビもがまんして、早く寝たりしてがんばっていました。
- ・9時に寝られるように、時間を気にしながら行動してすごいなと思いました。
- ・自分でゲームの時間を確認しながら、いつもより少ない時間で終わらせていました。
11月には集中できなかった15分の読書もがんばることができました。
- ・宿題のほかにも取り組んでいました。特に読書が好きなようです。
- ・毎日の宿題と週末には勉強時間を増やしてがんばっていました。
- ・自分で自学の内容を計画することは難しかったみたいですが、がんばるぞ!!というやる気はばっちりもって、がんばっていました。
- ・ゲームはやるけど、しっかりルールを守るようになりました。クラブで宿題を終わらせてきたりと、勉強に向かう姿勢が変わったと感じています。

【4年生児童の振り返り】

- ・勉強の習慣がついたのは、今までのがんばりが役に立っているということなのでよかったです。(※今まで意識して家庭学習をしていたことが習慣になり、生活の中で自然にできていることを感じているようです。)

今回もほとんどの学年で9割程度の点数を取ることができていて、よく頑張っていました。また、前回点数が少し低かった家庭学習の時間も、今回は前回より点数が上がっていました。家庭学習を始める時刻を決めて取り組み、時間を意識して学習しようと頑張る姿勢が見られ嬉しく思います。今回、他の項目に比べて少し点数が低かったのは「読書時間」と「テレビやゲームの時間」でした。

今の時代は、テレビやゲーム、スマートフォンなど読書以外に子どもたちにとって魅力的なものがたくさんあります。今の社会では、これらをすべて否定することはできません。そこで、これらの使用方法をご家庭できちんと確認されながら、「ゲームもいいけど、読書も楽しいよ。」と両者が上手に共存できるようにしてほしいです。

読書は、確実に、語彙を増やし、読解力を伸ばしてくれます。テレビやゲームと同じ気軽さで本に手が伸びるような工夫をされてみてはいかがでしょうか。

そこで、本を読みたくする読書の環境づくりを紹介します。

①予告編を聞かせて、「読みたい気持ち」にさせる

親が子どもに、本のさわりを少しだけ話して、「もっと詳しく知りたい」と思わせるのです。子どもの好奇心は本来、大きなエネルギーをもっています。知りたい気持ちさえあれば大人がびっくりするような勢いで読み通してしまいます。

②親と子どもが共同の本棚を使う

「親は親用の本棚」「子どもは子ども用の本棚」と分けなくて、家族共用の本棚にします。マンガも小説も写真集も百科事典も分類さえしてあれば同じ本棚にならべてOK。その方が子どもは興味をもっていろいろな本に手を伸ばします。子どもが難しい本を読んでも、大人も絵本を読んだっていいのです。

また、共用にすることで、子どもの読んでいる本を、親が管理しやすい利点もあります。

③みんなが集まる場所に本棚を置く

本棚は子どもだけの部屋に置くよりも、家族みんなが集まるリビングや台所に置きます。子どものうちは“一人で、だまって、じっと読む”ことが苦手です。だから、いつも誰かがそばにいる環境(子どもと一緒に読んでいる気分になれる環境)を整えます。すると、「このお話、すごくおもしろい！」と本について語れるし、「この漢字どう読むの?」「これ、どんな意味?」と質問も出てきます。

子どもの中に「本を読むって楽しい」という気持ちが芽生えれば、自分からどんどん本を読むようになります。

(『国語の教科書』栄光ゼミナール編著より)

いいと分かっているけど忙しい毎日の中、お子さんに読書の環境を整えてあげることはなかなか大変だと思います。ぜひ春休みを使っていただき、「本にふれる時間」をつくっていただきたいと思います。

